

はじめに

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(以下「センター」)は、1994 年以降『スラブ研究センターを研究する』(2014 年の第 7 号からは『スラブ・ユーラシア研究センターを研究する』)と題する点検評価報告書を、7 回にわたり公刊してきました。本報告書はこの 8 回目となるもので、国立大学の第 3 期中期目標・中期計画期間(2016～21 年度)の 4 年目に実施される大学全体の中間評価に合わせて、6 年ぶりに自己点検評価を実施したものです。

今回の第 8 号の報告書は、2014 年度以降のセンターの活動を点検することが目的とされています。この期間は、一方ではセンターの教員定数や共同利用・共同研究の拠点経費が削減され、また第 3 期の共同利用・共同研究拠点の活動に関する中間評価では厳しい評価を受けるといように、センターの活動にとっての「逆風」が生じた時期でした。ですが他方では、ICCEES(国際中欧・東欧研究協議会)の幕張での開催の成功に大きく貢献する、教員および大学院生が権威のある賞を多数受賞する、人間文化研究機構を軸とするネットワーク型地域研究推進事業「北東アジア地域研究」に参加しこれが高い評価を受ける、など、逆風の中でも確実に成果を残してきた時期でもありました。この期間のセンターの活動についてまとめたものが、今回の報告書となります。

今回の報告書には、外部の方によるコメント・評価や外部アンケートの結果などは記載されておませんが、今後センターの活動について協議委員会や運営委員会などの場で検討する際の材料を提供するものとなっています。この報告書が、さまざまな形で活用されることを望んでおります。

なお本報告書が点検評価の対象としたのは 2014(平成 26)年度から 2018(平成 30)年度までですが、現況としての記述内容はおおむね 2019 年 4 月現在のものです。また今年度の点検評価を担当したスラブ・ユーラシア研究センターの評価委員会はセンター長のほか、田畑伸一郎、長縄宣博(以上、センター)、大西郁夫(文学研究院)、馬場香織(公共政策学連携研究部)、徳山雅一(法学研究科・法学部事務長)でした。また主な資料の整理は吉田哲也(センター事務担当)が担当しました(敬称略)。

2020 年 3 月

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

センター長 仙石 学